

# 令和5年度 家庭科シラバス

教科・科目名	家庭科・家庭基礎	単位数	2	対象学科・コース	理数科・国際英語科	対象学年・組	2年全学級	使用教科書	第一学習社 高等学校家庭基礎 持続可能な未来をつくる
--------	----------	-----	---	----------	-----------	--------	-------	-------	----------------------------

科目目標 (資質・能力)	柱書	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	知識及び技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
	思考力,判断力,表現力等	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
	学びに向かう力,人間性等	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

評価の観点について ○：重点とする観点 ●：記録に残す評価

学期	月	指導項目 (内容のまとめ)	テーマ	課題・テスト	時数	評価の観点			内容のまとめりごとの評価規準(例)・【評価方法】		
						知	思	態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 C 持続可能な消費生活・環境 (2)生活における経済の計画	自分らしい人生とはこれからの生活を考える	ライフプランの作成及びプレゼンテーション	6		●		人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫している	生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解し、将来を見通したライフプラン作成に主体的に取り組んでいる。
	5	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2)青年期の自立と家族・家庭 (2)青年期の自立と家族・家庭と社会	青年期の課題 家族に関する法律 ワーク・ライフバランス 男女の平等と相互の協力	学習ノート グループディスカッション 期末考査	6	●	●		生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。	家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察し、まとめることができる。	家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて、自分や家庭、地域の生活と照らし合わせて、その課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	6 7	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (3)子供の生活と保育 (3)子供との関わりと保育・福祉	子どもの発達 親の役割 子育て支援と福祉	折り紙平面作品 わが街子育てレポート 期末考査	6	●	●		乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。	子供を生み育てることの意義について考えると同時に、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察し、まとめることができる。	子どもを理解し、子どもと関わるスキルを積極的に身に付けようとしている。 子供を取り巻く環境について、自分や家庭、地域の生活と照らし合わせて、その課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

	7	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (4)高齢期の生活福祉 (4)高齢者との関わりと福祉	高齢者の現状と課題 高齢者やその家族の支援システム	DVD視聴レポート 学習ノート 期末考査	4	●	●	●	高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 高齢者の生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、まとめることができる。	高齢者を理解し、高齢者と関わる心構えやスキルを身に付けようとしている。 高齢者を取り巻く環境について、自分や家庭、地域の生活と照らし合わせて、その課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	課題 ホームプロジェクト	2	●	●	●	ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践している。	ホームプロジェクトに主体的に取り組もうとしている。 PDCAサイクルに基づき、自身のプロジェクトを振り返って、改善しようとしている。
	9	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (5)共生社会と福祉	社会保障制度と福祉 自助・共助・公助	ワークシート 期末考査	2	●	●	●	生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、まとめることができる。	有事における「自助」「共助」「公助」について考え、実践しようとしている。
	9 10 11	B 衣食住の生活の自立と設計 B 衣食住の生活の科学と文化 (1)食生活と健康 (1)食生活の科学と文化	人の一生と食事 栄養と食品 食生活の安全 食生活のデザイン 調理実習	学習ノート 小テスト 実習評価 期末考査	20	●	●	●	ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫したり改善したりしている。	仲間と協力し、安全な調理に取り組もうとしている。 自分や家族の食生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	12 1	B 衣食住の生活の自立と設計 B 衣食住の生活の科学と文化 (2)衣生活と健康 (2)衣生活の科学と文化	被服の手入れ、補修技術 衣生活と資源・環境 人の一生と衣服	学習ノート DVD鑑賞レポート 実技テスト 期末考査	12	●	●	●	被服材料、被服構成及び被服衛生について理解している。 被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。	被服と環境について問題を見だし、自らの衣生活における課題を設定している。	被服の補修に必要な技能を、積極的に身に付けようとしている。 被服製作に最後まで取り組もうとしている。
	1 2	B 衣食住の生活の自立と設計 B 衣食住の生活の科学と文化 (3)住生活と住環境 (3)住生活の科学と文化	平面図の活用 ライフステージと住まい 健康で快適な住まい 住まいの安心・安全	平面図作成 一人暮らしの計画レポート 期末考査	8	●	●	●	ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察し、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫している。	我が国や地域における防災の課題について理解し、家族や地域が安全に暮らすための工夫を実践している。

	3	C 持続可能な消費生活・環境 (2)消費行動と意思決定	消費者問題 キャッシュレス社会 自立した消費者	学習ノート DVD視聴レポート	4	○	消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解している。 生活情報を適切に収集・整理できる。	自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫している。	消費者問題について、自分や家庭、地域の課題と照らし合わせて、自分や家族が被害者にならないための行動を自覚し実践しようとしている。

#### 学習上の留意点

- ・学習道具は必ず持参して下さい。教科書・ノートを紛失したら、各自で再度購入して下さい。購入先は、先生に尋ねて下さい。
- ・グループでの活動へは、前向きな気持ちで参加して下さい。中でも実習については、出席自体が評価に入っていますので度重なる欠席には注意して下さい。
- ・未提出より低い点数はありません。作品など、たとえ上手に出来なくても、時間内にベストを尽くした作品を提出して下さい。
- ・テストは期末考査のみ実施します。評価のうち、テストの占める割合は50%程度です。普段の授業を大切にしましょう。授業を欠席した際は、後日、自分から教科担任へ学習内容について問い合わせし、学習課題へ取り組んで下さい。